

# わが校の紹介

家庭・地域とともに

養父市立宿南幼・小学校

校長 藤本 令子

「おはようございます。」  
「おはよう。」

宿南っ子の元気一杯の声が、地域に、そして校舎に響き渡り、さわやかな一日が始まります。

本校園では、児童61名、園児11名、計72名が同じ校舎で生活しています。そのお陰で、幼小の密なる連携が可能で、小学校就学時の不安は親子共々ほとんどないと言っても過言ではないと思います。

静かで豊かな自然環境の中で「子どもは地域の宝」「子どもこそ地域の活性化の源」という考えのもと、地域ぐるみで宿南っ

## 窓

スポーツを楽しむ  
秋本番を迎えました

スポーツを楽しむ絶好の季節です。特に子どもたちはスポーツが大好きです。運動することによって次々といろんなことができるようになり、自分がかんどん成長していくのが分かるからなのでしょう。

子を育てていただいています。とりわけ本年度は、学校教育目標『生き生き、はきはき、ねばり強くやり抜く宿南っ子の育成』を学校、家庭、地域が共に取り組む共育目標として、常に連携を密にしながら取り組んでいます。よりよい宿南っ子の成長をめざした宿南教育行動計画「みんなで育てよう宿南っ子」のリーフレットを作成し、学校、家庭、地域の果たすべき役割を明確にしました。学校は一人ひとりに

「確かな学力」をつけるべく、個に応じた指導の充実を、家庭では学習に集中できる環境づくりや食を通してのしつけ教育等、基本的な生活習慣の確立を、そして、地域では、「ふれあい」と



草庵室での全校朝会

「体験」をスローガンにして取り組んでいます。二年前に発足した「土曜クラブ」では、世代を越えた温かい心のふれあいや貴重な体験をさせていた、だいています。また、少女バレーや少年野球等を通じて、専門的な技能のみならず、粘り強さ・思いやりの心・協調性なども一層身につけ、たくましい宿南っ子に成長しています。

池田草庵先生の教え「学ぶ者は、事を厭い(いと)辞すべからず」を学校、家庭、地域が一体となつて実践することにより、「地域の宝」である宿南っ子の健全育成に、そして、学校教育目標の達成につながるものと信じています。

しかし、子どもを運動嫌いにしてしまうことがあります。「足が遅い。下手だ」と他の子どもと比べてしまい、子どもに劣等感を持たせたり、自信を失わせたりしてしまうからです。子どもによって成長のペースが違うので、「去年よりも速くなったね」「足腰がしっかりして

きたよ」などその子その子の『がんばり』を評価してやることで、生涯にわたってスポーツを楽しむながら健康づくりをしたいものです。運動会だけではありません。子どもが頑張っている姿を見に行き、子どもの健康と成長を祝いましょう。(学校教育課)

## まちの文化財③

### 朝倉氏と朝倉城

養父市教育研修所の市内視察研修が、8月19日にありました。17人の参加者が朝倉区長の才木茂さんの案内で朝倉城を見学しました。城の登り口には「越前の大名朝倉氏発祥の地」という解説板が建てられています。朝倉の集落は、越前一国を治めた戦国大名、越前朝倉氏の出身地です。

越前の朝倉氏は延元元年(1336)に初代の朝倉広景が、但馬から越前に入つて始めました。6代孝景は越前の守護となつて、一乗谷の城下町を整備して栄えました。しかし、



天正元年(1573)に織田信長の軍勢に攻められ、11代の義景で滅びました。現在の一乗谷は福井市の歴史公園となつています。

朝倉城は、集落から西方向に尾根を約300mほど登った標高152mの丘に

ある山城です。規模は南北180m、東西95mあります。城の南端は三本の堀切で区画しています。そして城の平坦地である曲輪が8段、北方向に続きます。

そして最も先端部に南北36m、東西42mの広い曲輪が作られています。物見櫓を建てたと思われる櫓台が中心にあり、曲輪の端には低い土塁が残っています。朝倉区長の才木茂さんは、

「朝倉城は大きな城ではありませんが、形が整っている

城で、堀切や土塁などがきちと残っています。八鹿がよくみえる景色のよいところにあります。福井市からも見学に来られます」と解説しました。朝倉氏は、八鹿町朝倉に屋敷を構え、鎌倉幕府を開いた源頼朝につかえた、朝倉高清を始祖としています。朝倉氏の一族は江戸時代には旗本になって、明治維新まで続きました。(社会教育課)